



## 二次予選出場者 16名が決定!

今回は、参加者がハイレベル者ぞろい。  
第二次予選出場者の選出に思いのほか時間がかかりました。  
審査員の方々の慎重な審議の結果、16名の方が選出され、  
二次予選進出者が決定しました。

### 二次予選出場者 (エントリーナンバー)

「 3 」 「 4 」 「 5 」 「 12 」  
「 16 」 「 31 」 「 38 」 「 46 」  
「 47 」 「 49 」 「 53 」 「 65 」  
「 73 」 「 88 」 「 107 」 「 110 」  
以上の方々です。

#### 【二次予選 課題曲】

以下の2曲を20分以内で演奏する。

- (1)1950年以降のフルート独奏の為の作品
- (2)THE GOLDEN AGE OF THE FLUTE 1-3巻の中から1曲を選択

## 子どもオペラ ヘンゼルとグレーテル R4.7.8

夏休み恒例、親子で楽しめるコンサートとして  
定着してきた子どもオペラ。0才児から入場でき、  
歌や手遊び、ダンスあり名曲ありで、子どもから  
大人まで楽しめるコンサートです。

子どもたちは、ヘンゼルとグレーテルと一緒に  
ワクワク、ドキドキしながら魔女の森を探検しまし  
た。ピアノやバイオリン、クラリネットやホルンの本  
格的な演奏と美しい歌声が相まって、物語と音  
楽が融合した世界へ引き込まれました。子どもたちはリズムに合わせて時に歌い、体を  
動かし、目いっぱい音楽の世界を楽しんで大満足。子どもたちが音楽に触れ、仲間と  
ともに楽しめる場として、コスミックホールの大切さをあらためて感じたひと時でした。



## 村松楽器販売株式会社 草川勇一さんからのメッセージ

出場者の皆様は、このコンクールに向けて  
日々、相当練習を重ねてきたことと思います。  
もしかしたら普段より楽器を酷使されてきた  
かもしれません。「調子が悪いけど、楽器の  
せいなのか?」そんな時は遠慮なく楽器点  
検コーナーへお越しください。フルートはタ  
ンポにほんの僅かな隙間があっても、音の鳴  
りが変わってくる楽器です。万全の状態安心してコンクールに臨んでいただ  
けるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。



## 日本木管コンクールボランティアスタッフに ありがとう

初々しい東条学園小中学校8年生・9年生の生徒10名が、  
ボランティアとして日本木管コンクールに初めて参加し、  
2人ずつ、5つの係を分担してそれぞれに活動しました。  
みんな初めての仕事で、緊張しながらもチームで相談しな  
がら取り組みました。若さと新鮮さでホールの中は明るさ  
と緊張感があふれ、本当に素晴らしい空気がたどっていま  
しました。

今後も学校活動に支障のない限り、こんな交流が続いた  
ら、生徒の皆さんにとっても、ホールにとっても、素晴らしいことだとなつづくと思います。



#### 〈生徒の感想〉

○ボランティアスタッフの方たちが丁寧に教えてくださっ  
て、演奏を聴きに来るお客さんに対しての接客の仕方が分  
かりました。今日はありがとうございました。(受付係)  
○インタビューの仕方が分からなくて緊張したけど、何回  
かチャレンジするごとに、声のかけ方や質問することも段々  
分かってきてとても良い勉強になりました。(広報係)

## エリック・ミヤシロ 播磨国吹奏楽団 加東公演 R4.5.22

コスミックホールではすっかりお馴染みの世界的  
トランペット奏者エリック・ミヤシロ氏と、姫路から世界へ吹奏楽を発信されている  
播磨国吹奏楽団をお迎えしました。世界のスー  
パートランペッターと多戸幾久三氏率いる新  
進気鋭の播磨国吹奏楽団のパワフルなサウ  
ンドを東条で聴けるなんて、なんと贅沢。

おなじみのマーチをはじめ、「スターウォ  
ーズ」や「ウエストサイドストーリー」などの  
名曲の数々を、エリック氏のアレンジによるポップで迫力あるサウンドで堪能。ト  
ランペットのしびれる高音と磨き抜かれたテクニック、吹奏楽の力強さも繊細な音  
色に酔いしれました。またエリック氏のユーモアに溢れた解説や温かいお人柄にも  
魅了されました。締めくくりは、一般の方々も参加し、エリックバージョンの「宝  
島」。コロナ禍で音楽に餓えていたホールに、パワー溢れる音楽が魅りました。



## 出場者のみなさんの感想

- オーストリアに6年間留学しています。高校生の時から3  
回目の挑戦です。1次予選はバツババばかりでしたが、2次に  
進めたら得意の現代曲で挑戦したいと思っています。
- 他のコンクールは雰囲気ギリギリしているが、ここは  
とてもやわらかくて、演奏がしやすかったです。
- 北海道から来ました。コスミックホールはとても素晴ら  
しく、たくさんのボランティアの方々が頑張っておられる  
ことに感心。これからも頑張ってください。
- 私は朝が弱いので、このコンクールにむけ早起きできる訓練(5時起き)を1週  
間ほどして体を慣らしてきたんです。そのことが一番大変でした。
- 初めての挑戦です。まちの方がとても優しく皆さん声をかけてくださり、力  
になりました。ホールはとても響きがよく気持ちよく吹けました。
- 演奏しているときは、音楽のことだけを考えています。
- 初めて来ました。自然が多くて素敵なお場所ですね。広々として気持ちのいい  
所だなと思いました。



## ボランティアスタッフのこえ

- 【音響係さん】・観客も出場者も、気持ちよく楽しんでもらえるようにと、笑顔でスムーズにエスコートできるようにと考えて対応しています。
- 【接待係さん】・多可町から参加しました。コスミックホールの大変さを知り、少しでもお役に立てればと思って参加しました。多くの方々、変わらず長年ホールの  
存続に携わっておられる姿が素晴らしいと思います。
- 【受付係さん】・今年は中学生スタッフの参加を受け、接客についての話をしたり、ホール内のコンクールを体験してもらおう指導をしたりしました。和やかな雰囲気  
の中で楽しそうに活動している様子うかがえました。・今年は近隣のゴルフ場の大会で、宿泊場所が遠いせいか、到着が遅い方があったりしてひやひ  
やしました。





第33回日本木管コンクール  
(フルート部門)  
会場:東条文化会館コスミックホール  
発行日 2022年11月5日(土)  
(第2号)

# ほっとねっと

発行:日本木管コンクール委員会  
〒673-1311  
兵庫県加東市天神66  
Tel 0795-47-1500



※委員名は五十音順です

## 審査員の先生による 一次予選 講評

### 高木 綾子

東京藝術大学音楽学部准教授

◎審査委員長

4年ぶりのフルート部門開催にあたり、準備からご尽力いただきました、加東市東条文化会館 NPO法人新しい風かとうの皆様には、御礼申し上げます。そして、開催発表から短い期間に、動画審査に申し込みをしてくださった参加者の皆さんの熱意にも感謝しています。このホールで久しぶりにフルートの音色があふれているのを目の当たりにし、私も喜びの気持ちでいっぱいです。本選の日まで数日間ですが、若きフルーティストの皆様の音楽を心ゆくまで楽しませていただきます。日頃の練習の成果が発揮出来ます様に！！



### 清水 信貴

相愛大学音楽学部教授、一般社団法人日本フルート協会副会長

○運営委員長

バロック音楽をピリオド奏法(その当時の奏法)で演奏する時に気をつけなければならないのは、ただ中途半端にビブラートをかけないで吹いても初心者のように聴こえます。

ビブラートをかけなくても音楽が様になるように、また倚音や導音の処理、音程なども気をつけましょう。



### 神田 寛明

NHK交響楽団首席フルート奏者、桐朋学園大学教授

Allemandeは音型の区切りを見極めてください。音型は4音から8音くらいの短い集まりで、それらが独立したり山脈を構成したり、登り降りしています。終止も、そこで終わるのか、先へ続くのか。句読点なのか改行なのか、ページをめくるのか。そして4小節構成の基本単位を念頭に、例外を見つけ出す作業が必要です。Poco adagioは緩徐楽章、基本の音量はpです。1小節目2拍目のpはエコー効果、3小節目のfはそれの打ち消し=基本音量に戻る。アレグロとは音量が違います。

18世紀前半の音楽は「語る」と「踊る」が大切です。そのための滑舌と良い声、しなやかな筋肉とバネがフルートから表現される必要があります。2曲とも畏敬の念を抱く作品です。自己の感性よりもバッハの方がエライのは当たり前です。



### 高橋 聖純

国立音楽大学准教授、元札幌交響楽団首席フルート奏者

動画審査を勝ち抜いた約60人の出演者による演奏というだけあって、一次予選から非常にレベルの高い演奏を多く聴くことができました。音の良さや演奏の安定度という意味では、技術的レベルは確実に上がっていると言えます。コンクールですので残念ながらそれらの素晴らしい演奏に順位をつけたいといけないのですが…。色々な視点から審査をする事ができると思いますが、私の場合ざっくり言うと「この方の演奏をチケットを買ってもう一度聴きたいと思うか?」という視点でこの一次予選を審査しました。そこには何が必要になるでしょうか?皆さんならどのような演奏をもう一度聴きに行きたいと思うのか、ご自分の演奏を振り返りながら考えてみてください。



### 中務 晴之

大阪教育大学芸術表現部門教授、大阪音楽大学非常勤講師

第1次予選の曲の演奏を聞きましたが良くも悪くも色々な演奏がありました。J.S.バッハ作品はすべての舞曲から成り立っています。C.P.E.バッハ作品も踊りの要素が多い曲です。これらの曲に取り組む際は両作品とも当時の演奏スタイルに則り、テンポ感を重視した上品なパフォーマンスをするべきですが、これを無視してあまりにも自由奔放な演奏が多く見受けられました。特に超絶技巧を披露することもなく、思いっきり歌う場面もないこれらの作品はフレーズの核となる通奏低音をしっかりと鳴らし、各声部の特徴を生かして全ての音を丁寧に吹くことが大切です。暗譜の不安な方も多かったのですがこれも曲の構造をより理解した上で臨むべきだったでしょう。



### 長山 慶子

大阪音楽大学教授

メモ書きより-C.P.E. Bachについて、やはり冒頭のAのオクターブの音程が難しいかな? 中音域 h, c, cis, d の音程が高い人が多い。2楽章は1楽章の8分音符=4分音符、3楽章は1楽章の8分音符=1小節。3楽章に向かって速度が速くなっていくはずだが J.S. Bach について、1楽章はフレーズ感がハッキリ表現できている人は聴いて安心できる。2楽章は題名通り流れを感じて演奏出来ている人が多い、がさらにフレーズや間を大切にしたいところ。逆にサラバンドは音楽の流れを止めてしまっている。プーレはやはり速すぎるテンポで吹く人が多い。骨格、構成がしっかりしている人はどのように歌いたいか伝わる。そして舞曲として捉えている人はリズム感が心地よい。そのほか印象に残っているのは、暗譜が飛んでしまっても諦めずに最後までしっかり演奏していた方々、本当に立派でした。特に1次予選は私たちも応援する気持ちで一杯です。決して落とすことが目的ではなく、若い皆さんの演奏を堪能したいと思っていますから。



### 橋本 岳人

愛知県立芸術大学准教授、名古屋音楽大学講師

一次予選に参加された皆様、本当にお疲れ様でした。ハイレベルな演奏が続きましたが、その中でも幾つか気になる点もありました。パルティータは各舞曲の性格をもう少し掘り下げて頂きたいのと(CPEも舞曲の要素が含まれていると思います)、両曲共にテンポが速過ぎて表情や光と陰、音色の変化が薄くなり、説得力に欠ける場面が聴かれました。

両曲はフルーティストにとって正に宝物。作曲家からのメッセージを理解し、誰の真似でもない皆さんの自身の声、感性で聴衆の心に響く演奏を目指して頂ければ嬉しく思います。



### ～加東市ふるさと納税 (ふるさと応援活動支援金)のご協力をお願いいたします～

特定の団体(支援希望団体)に対する寄付の受付を開始しています。  
QRコードをスマホ等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金交付制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。

特定の団体(支援希望団体)については、「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」をお願いします。  
詳しくはホームページをご覧ください。  
また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」のホームページをご覧ください。



### ～日本木管コンクール開催における 協賛金・ご寄附に ご協力をお願いいたします～

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカー各位をはじめ、コンクールを応援して下さる個人の皆様の温かいご寄付とご協賛支援に支えられて取り組んでまいりました。

「この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならない」との思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与した功績をご理解いただき、今後もコンクールを継続するためにもご協力を仰ぎたいと考えております。

どうぞ、皆様の温かいご支援を宜しくお願いいたします。  
詳しくは「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」又はQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。



加東市東条文化会館  
コスミックホール

ホームページ  
<http://cosmic-hall.org/>

